



IAMAS

Annual Report

— 2015 —

IAMAS

Annual Report

— 2015 —

Greeting

ごあいさつ

IAMASが2014年にソフトピア地区に移転してから2年になります。地元企業や自治体、地元商店街、公共施設など多くの皆様から連携の相談をいただき、おかげさまで昨年を上回る件数の連携事業をここにご報告することができました。IAMAS Annual Reports 2015では、多種多様な連携プロジェクトについて報告させて頂いていますが、改めて振り返ってみると、2015年度は主に3つの特徴があります。

まず、地方創生元年と呼ばれた2015年、政府が施策として掲げた「地方創生」につらなるプロジェクトが各地の自治体や地元企業で実施されました。本学の産業文化研究センターでも地域活性や地域ブランド化など、地方創生に関する相談が多くあり、一体となって各種プロジェクトに取り組んだことです。具体的な地域課題や政策に、IAMASがただ応えるというのではなく、連携パートナーが求める以上の新しい価値や創造といったものをどのように実現できるのかが、IAMASに問われたと感じます。

次に、岐阜県美術館、岐阜サラムンカホール、大垣ソフトピアセンターなど、県内の文化施設との協働事業が増えたことがあげられます。展示企画や制作協力、施設の広報支援など、連携内容は多岐に亘りますが、これまでの連携パートナーとは異なる新たな地域連携先の皆様にIAMASの先進的な表現手法を知っていただき、これらに関心をもっていただく機会を創出することができました。同時に、IAMASの教員や学生も地域の文化施設を活用し、独創的な表現を地域に問いかけることに積極的になりました。

最後に、これまでの連携成果をベースにした新しい連携のあり方が見えるようになったことが、何よりも重要な点としてあげられます。単発で終わってしまうイベントや事業が多い中、IAMASが地域の皆様との対話を大切にしながら継続的に実施するプロジェクトに対し、地域の中に新しい価値を期待するとの声が多く寄せられました。その延長線上に、息の長い連携を視野に入れた取り組みをどう切り開くかについての議論がIAMAS内で萌芽としてみられたことは何よりの成果だと考えます。メディアアートを楽しむ地域の皆様、新しいローカル鉄道の活用に期待する地域内外の皆様、新しいテクノロジーやデザインを投入するローカルフェスティバルに期待する地域の皆様など、IAMASが取り組んできた、これまでの連携プロジェクトの成果を評価していただき、長期的連携を視野に入れたIAMASとの連携プロジェクト事業提案を新たにいただきました。

これまでの成長経済から定常経済への変革が求められる現代の社会において、産業の在り方や文化的価値の創造への問いかけは、政府や大企業だけでなく、むしろ地元商店街や地域コミュニティから強くあがっています。グローバル社会進展の中で取り組むべき喫緊の課題に直面する世界でIAMASができること、果たすべきことは何かを常に自問しながら、これからも地道に、大胆に取り組んで参ります。今後とも関係各位の皆様のご支援とご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

産業文化研究センター長
金山智子



Contents

目次

● 産業

メディア・地域・鉄道プロジェクト	8
根尾コ・クリエイション	10
タリイコネクション	12
立体物のプレゼンテーションのための点光源を利用した新しい映像表現の研究	14

● 文化

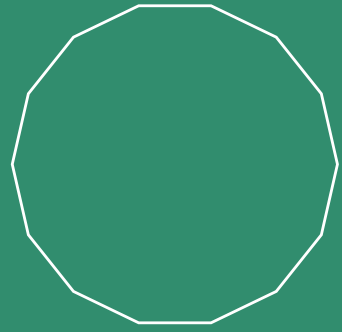
羽島陰影	18
Ogaki Robot Project (情報学基礎)	20
サラマンカ電子音響音楽祭	22
「岐阜・風景映画」プロジェクト ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 共同プログラム	24
岐阜おおがきビエンナーレ2015 —Cracks of Daily Life 日々の裂け目	26
アートまるケット	30

● 地域社会

揖斐川町地獄絵スタンプラリー	34
三年目の美濃のいえ	36
第4回 展開図武道会 ～この椅子いいっすね!	38
2015年度連携事例 全リスト	42
2015年度IAMAS関連イベント 全リスト	44



「窓辺のカフカちゃん」(制作…アート・オブ・ライフ・プロジェクト)



IAMAS
Annual Report
2015

産業



IAMAS Annual Report 2015

連携先

樽見鉄道(株)
長良川鉄道(株)
郡上木履

プロジェクト名

メディア・地域・鉄道プロジェクト

連携場所

樽見鉄道
長良川鉄道

担当教員

金山智子教授
平林真実教授
瀬川晃准教授
城一裕講師

協力者／参加学生

NxPC.Lab
市野昌宏
石川琢也
白鳥啓
中原淳(グレイセル)
日栄一真

連携期間

2013年 - 2015年

メディア・地域・鉄道プロジェクト

プロジェクトの目的

岐阜のローカル鉄道、駅、周辺地域をユニークなメディア空間としてとらえ、新しいインタラクションを実装させ、また、地域の文化という資源も織り交ぜながら、これまでにない表現を模索している。今年度は、これまでの研究成果がローカル鉄道の新しい価値を生み、実社会の需要を創出することが出来た。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2012年度に樽見鉄道を使った3つの単発プロジェクトをきっかけとして、2013年度より本格的なプロジェクトとして開始した。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

準備・開発から実施まで

奥美濃ソウルトレイン(長良川鉄道)

6月: 連携調整
7月: 蛍駄(KETTA) 製作、コンテンツ制作
8月: 奥美濃ソウルトレイン実施

TrainSpotting(樽見鉄道)

10月: 機材やシステム準備、プログラム検討
11月: TrainSpotting 実施

メリーからクリスマス(樽見鉄道)

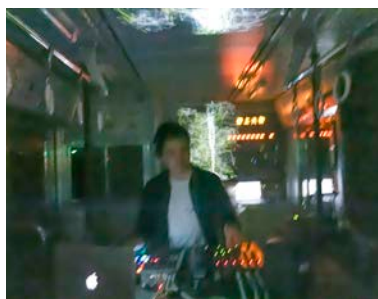
10月: 企画
11月: システム開発、現地調査、デザイン制作
12月: 部品製作、稼働テスト、メリーからクリスマス実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

昨年までのプロジェクト成果から、長良川鉄道やTrainSpotting 実行委員会より鉄道内でのイベントの相談を受け、それをベースにIAMASが企画と運営を担当した。



郡上木履の下駄を動きで光る蛍駄（KETTA）に変える



奥美濃ソウルトレインでは郡上踊りや白鳥踊りを取り入れたDJ



夕暮れに映える蛍駄



列車の走り Networks の演奏の妙

連携の成果

これまで3年間の研究成果が、ローカル鉄道や利用者にとって新しい需要につながり、実サービスとして社会に提供することができた。同時に、新しいインタラクションの可能性もみえ、来年度に継続して研究する。

参加教員のコメント

これまでの成果が、新しいローカル鉄道の価値の創造となったことを実感するできたことは何より嬉しかった。





IAMAS Annual Report 2015

連携先

グレイセル(株)
(株)TAB
地域おこし協力隊
本巣市役所
根尾住民のみなさん

プロジェクト名

根尾コ・クリエイション

連携場所

本巣市根尾地区

担当教員

金山智子教授
小林孝浩教授
James Gibson 准教授

協力者／参加学生

中原淳(グレイセル)
中原千草(グレイセル)
西田拓馬(TAB)
山口歩那(地域おこし協力隊)
後藤良太
南原食堂
所一憲
松葉三郎
黒川光子
中村親也

連携期間

2015年度

根尾コ・クリエイション

プロジェクトの目的

岐阜県本巣市の根尾地区(旧根尾村)において、何百年にも亘って住み続ける中でつくられ伝えられてきた独自の生活文化を、地元住民と地域内外の様々なクリエイターの共創プロセスを通して、新しい技術や視点、価値観をもって捉え直し、これからの持続可能な地域社会や新しい経済システムを考えていきます。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

根尾にあるウェブ系ベンチャーのグレイセルや大垣の建築設計事務所TABと、長嶺小学校(廃校)の活用提案をきっかけとして本格的なプロジェクトとして開始した。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

拠点づくりから、活動実施まで

活動拠点(ねおこ座)整備

4月-11月:古い建物のリノベーション作業
7月:ねおこ座オープン

集落フィールドワーク

8月-11月:越波、黒津、大河原、能郷、市場

ワークショップ

8月:「もう、8月31日に泣くのはごめんだ!!!」開催
11月:ねおこ座体験教室
12月:ねおこ座交流会

製作活動

1月-:ねおこ新聞開始(とちのき)、根尾ファブリック製作、おちょぼキット試作
2月-:図書棚貸出し、畑作

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

参加者それぞれの関心や企画実現を支援しつつ、全体のプロジェクト企画と運営に携わった。



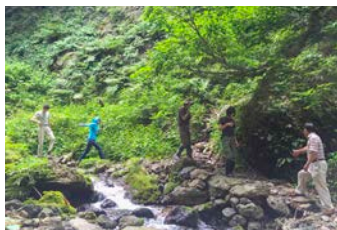
DJ体験、ほうき作りなど色々な体験を楽しむ



黒津集落でのフィールドワーク



表現することを楽しむ子どもたち



越波でのフィールドワーク



建物のリノベーションに子どもたちも参加



子どもも大人も一緒に楽しむ水切り大会

連携の成果

予想以上に、内外のクリエイターや地域の人たちが拠点(ねおこ座)で交流し、また、集落のフィールドワークをもとに、ユニークな根尾の人たちや生活文化と関わることができた。それをもとに新しいモノやコトを創造していくことができ、活動の基盤を築くことができた。さらに、プロジェクト外の人たちが根尾に関心をもち、ねおこ座を活動ベースに使用する事例も生まれている。

参加教員のコメント

限界集落化する地域の生活文化が、新しい価値や社会システムを創造する基盤や資源となる可能性を実感することができた。期待以上に異なる人たちとの共創をすすめることができた。





IAMAS Annual Report 2015

連携先

垂井町観光協会

プロジェクト名

タリイコネクション

連携場所

垂井町観光協会

担当教員

前田真二郎教授

協力者／参加学生

高嶋浩 (IAMAS 卒業生)
石川琢也 (IAMAS 研究補助員)
丹羽彩乃 具志堅裕介 (IAMAS)
HD II 高精細画像を用いた表現研究プロジェクト

連携期間

2015年6月 - 2016年3月

タリイコネクション

プロジェクトの目的

独自の視点から垂井町をリサーチし、そこに住む人々を結びつけながら映像化を行う。垂井観光協会のWEBサイトに特設ページを作成し、県内外の方々に垂井町の魅力を高精細映像によってアピールする。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

垂井観光協会からRCICに映像制作の依頼があった。通常の網羅的な観光情報とは違ったDVDを作りたいとのことだった。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

前田教授 (HD II 高精細画像を用いた表現研究プロジェクト) を垂井観光協会に紹介し、打ち合わせを行った。当初の依頼であったDVD制作ではなく、4Kフォーマットによる高精細映像をメインコンテンツとするWEBページ制作という計画をIAMASから提案する。

以前に垂井のフィールドリサーチの経験のある石川 (IAMAS 研究補助員) と岐阜市で映像制作業務を営んでいる高嶋 (IAMAS 卒) が中心となって企画・構成をすすめる。前田教授はアドバイザーとして参加。垂井観光協会でのプレゼンテーションを経て、実制作がスタート。

9月：タリイコネクション企画・構成

10月 - 1月：垂井町内にて撮影

1月：編集作業 WEBデザイン制作 完成試写

2月：ブルーレイとDVDのオーサリング WEBコーディング

3月：特設ウェブサイト「タリイコネクション」公開 (予定)

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

垂井観光協会の依頼に対して、提案を行い、実制作を担当する卒業生と研究補助員による制作チームを組織した。HD II 高精細画像を用いた表現研究プロジェクトは、機材協力及び制作のアドバイザーとして参加した。



様々な垂井町の声を収録



ライティングを工夫した室内撮影



ドローンによる空撮



映像とテキストで構成したwebデザイン

連携の成果

「遊」「水」「食」をテーマにした高精細映像をメインコンテンツとした「タルイコネクション」を垂井観光協会の特設WEBサイトとして公開。

参加教員のコメント

IAMAS学内でのプロジェクトと卒業生、研究補助員が連携することで実践的に依頼に対応することができた。短期間ではあるが、在生も撮影現場の体験や音楽制作など参加できたことは有意義だった。





IAMAS Annual Report 2015

連携先

(株) TRUNK

プロジェクト名

立体物のプレゼンテーションのための点光源を利用した新しい映像表現の研究

連携場所

イタリア・ミラノ (成果発表会場)

担当教員

クワクボリョウタ准教授

協力者／参加学生

石橋素 ((株) ライゾマティクス)
青木聖也
大澤悟

連携期間

2014年12月 - 2015年4月

立体物のプレゼンテーションのための点光源を利用した新しい映像表現の研究

プロジェクトの目的

企業の見本市など、次々と訪れる観衆に特定のプレゼンテーションを続ける際は、ビデオ・モニターやプロジェクターなどの映像装置を用いることが多い。

一方で、プロダクトなどの現物そのものを直接提示しつつ、それを用いてスケール感と時間軸を伴った映像体験を提供することができないだろうか。それにより、企業プロダクトと企業アイデンティティを関連付けるような、発見的な体験を観衆にもたらし事ができないだろうか。

(株) TRUNK が手がける企業展示企画の中でそのような要請が持ち上がった。

そこでクワクボによる点光源と鉄道模型によって立体物の影を動的に映し出すインスタレーションを原型とし、ロボットアームを導入してより多様な映像表現の可能性を探ることになった。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

(株) TRUNK は数年来、世界的なデザイン見本市であるミラノ・デザイン・ウィーク (ミラノ・サローネ) で企業の展示をプロデュースしてきた。代表の桐山登士樹氏がクワクボの展示作品を観た事をきっかけとして、企業宣伝の手法として応用できないか相談を受けた。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

2014年

12月：展示方針の決定

2015年

1月：モチーフの選定と投影効果の実験

2月：仮設会場の設営、ロボットアームの設置

3月：シーケンスの設計

4月：ミラノでの展示発表

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

全体のコンセプトを(株) TRUNK が決定し、それを元にクワクボが展示作品を計画。

光源回路の設計、3D スキャンを利用した展示モチーフの制作を学生が担当した。

ロボットアームのプログラミングを石橋氏が行った。



Photo by Daisuke Ohki



人物像制作のためのスキャン作業
(本学学生の大山千尋さん、大久保雅くんがモデルを担当)



学内での仮組の様子。作品のモチーフとなる自動車部品を配置し、ロボットアームにより移動する光源の軌跡を決定



石橋素氏によるロボットアーム・プログラミングの最終調整



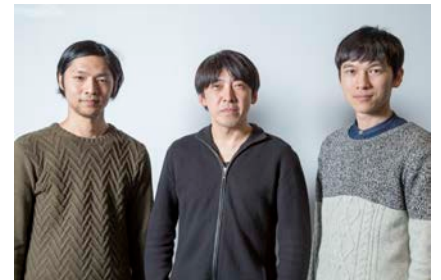
無事にミラノ・デザイン・ウィークのオープンを迎えることが出来た

連携の成果

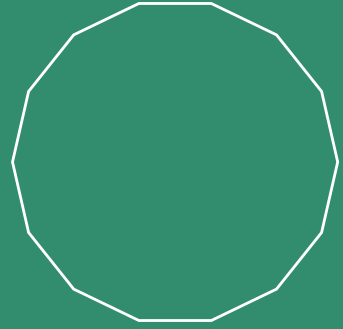
研究成果として、ミラノ・デザイン・ウィークのアイシン精機(株)の展示ブースでインスタレーション作品「invisibility」を展示し、多数の来訪者が訪れた。

参加教員のコメント

点光源をロボットアームで動かすことで、古くからの影絵芝居のような味わいと、繰り返し上演できる再現性、微小なモチーフを正確な角度で映し出す精度を兼ね備えた展示が実現できた。







IAMAS

Annual Report

2015

文化



IAMAS Annual Report 2015

連携先

羽島商工会議所

プロジェクト名

羽島光陰

連携場所

羽島市

担当教員

赤松正行教授
八嶋有司研究員

協力者／参加学生

連携期間

2015年6月 - 10月

羽島光陰

プロジェクトの目的

昨年度に引き続き、羽島市で開催される「なまづまつり2015」において、羽島メディア・アート第2弾と題し赤松正行教授と八嶋有司研究員が共同制作する「羽島光陰」「羽島光陰」を羽島市の古民家（旧菱田邸）にて発表することを目的とした。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

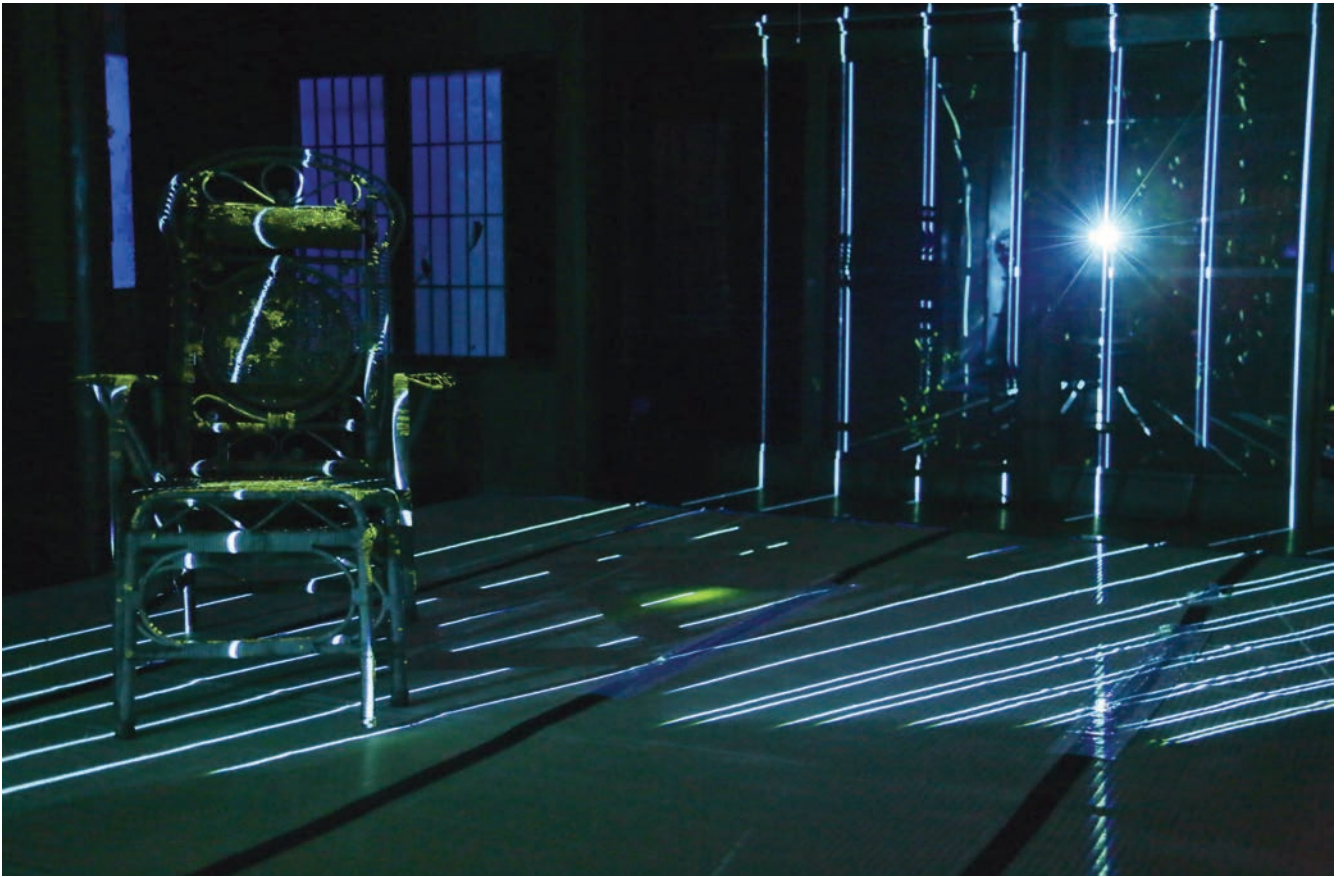
昨年度の「なまづまつり2014」で発表した羽島メディア・アート第1弾「ハシマ・スマイル」の成功を受け、「なまづまつり」を主催する羽島商工会議所より、光をテーマとした羽島メディア・アート第2弾の制作依頼を受けたことがきっかけとなった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

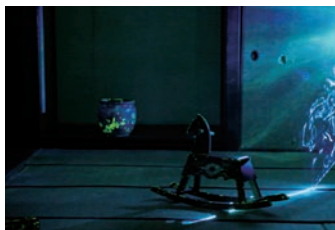
6月30日：意見交換及び企画案提出
7月7日：機材調達、機材テスト開始
7月15日：企画案再検討
7月17日：企画案、参考イメージ再提出
7月22日：蓄光塗料、レーザープロジェクタ投影テスト
8月1日：レーザーモジュール投影テスト
8月4日：会場視察、機材テスト
8月11日：企画案の承認、作品タイトル決定
9月10日：機材調達、機材調整
10月8日：会場視察、機材テスト
10月16日：展示用モチーフの選定、搬出
10月18日：IAMAS内で仮展示、テスト撮影
10月21日：会場視察、作品の仮設置、テスト投影
10月24日：設営、展示、撤収

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

メディア・アート作品の企画制作、展示を行った。



作品の素材となる陶器に蓄光塗料を塗ったイメージ画像。背景に写る光線はコンピュータ制御のレーザー。



作品「羽島光陰」の様子。生活の痕跡を蓄光塗料によりトレースし、レーザー光とともにその痕跡だけを光によって浮かび上がらせる。



会場視察の様子。古民家に眠る古道具やおもちゃなど、作品のモチーフとなる素材を選定した。



古民家に眠る机。無数の痕跡が淡い光となり浮かび上がる。

連携の成果

メディア・アート作品「羽島光陰」を制作、発表した。来場者からは、メディア・アート作品に興味を持つ声や、「もっと他の古民家も使ってほしい」という反応があった。メディア・アートをとおして新しい地域の見方を提案できた。

参加教員のコメント

古民家という場所に対し、どのような側面を抽出することができるのか試行錯誤を行った。光を使い形のない記憶を紡ぎだすことに面白さを感じると共に、このようなアプローチは、他の地域への応用も期待できる足掛かりとなった。





IAMAS

Annual Report

2015

連携先

(株)サイエンスネット
大垣各所
JAいび川
(株)電算システム
飛騨信用組合

プロジェクト名

Ogaki Robot Project (情報学基礎)

連携場所

奥の細道むすびの地記念館売店
大垣駅南北自由通路
大垣市サイトピアセンター
ソフトピアジャパンセンタービル周辺
大垣商店街各所

担当教員

小林孝浩教授
安藤泰彦教授
山田晃嗣准教授

協力者／参加学生

アビダルマ(株)
修士1年生

連携期間

2015年度

Ogaki Robot Project (情報学基礎)

プロジェクトの目的

1年生必修の情報学基礎は、激しく進化しつつある情報技術についての理解を深めることを大きな目的としている。2015年度は「Ogaki Robot Project」と題し、人型ロボットの置かれている状況(文脈)を意識した人とのコミュニケーションをテーマとした。ここでのprojectは、ロボットを公共空間に投げ込むことも指している。大垣の街中各所でロボットを動作させ、その様子を映像として記録した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

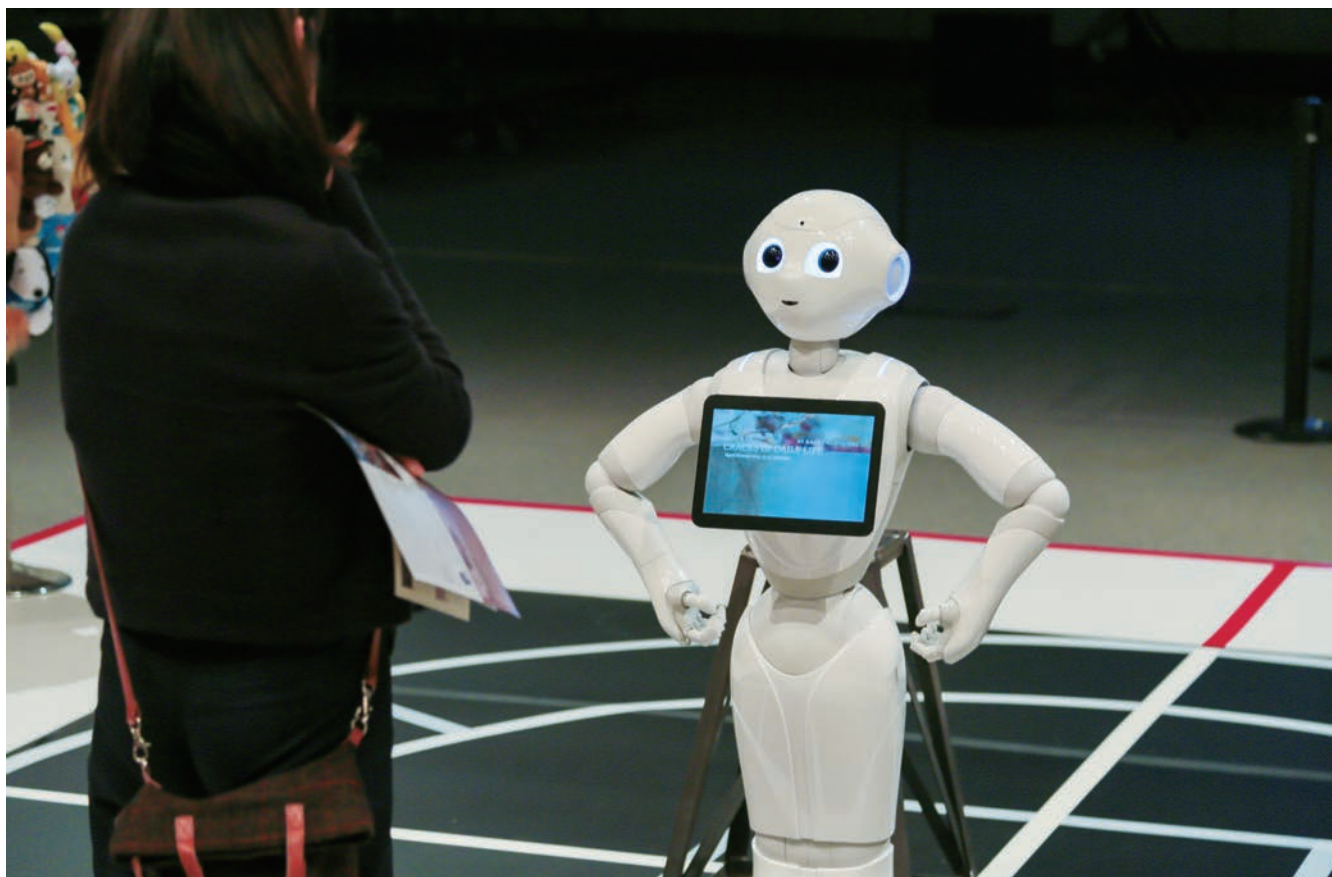
「感情認識ロボットPepper」がIAMASで導入決定されたことを受け、授業に取り入れた。単なる「ロボットプログラミング」としないため、大垣の街中へ繰り出し学生各自がテーマを探すこととした。本課題の帰結として各種店舗等での連携につながった。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

4月下旬：課題提示、ロボット(Pepper等)概説、プログラム演習
5月上旬：フィールドリサーチ(写真撮影、プラン検討、発表準備)
5月中旬：プログラム実装
5月下旬：ロボット動作チェック、発表準備、学内実演
6月上旬：プログラム改良、現場ロケ(動作撮影)、映像編集
6月中旬：最終発表

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

各種企画を提案し、店舗等に持ちかけ協力を依頼した。



酔っ払いペッパーと飲む



鉄道少年



商店街でのロケの様子



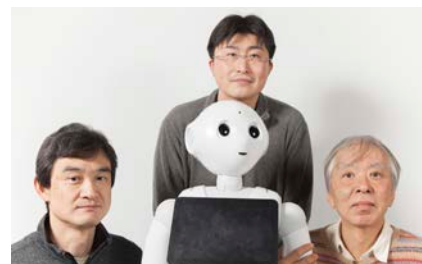
デンパドウおよび歌謡ショーで熱演するPepper

連携の成果

ロケの様子が中日新聞と岐阜新聞に掲載された。課題の一つ「Pepper 亜紀」がJAいび川主催の歌謡ショーで八代亜紀と共演した。(株)電算システムから依頼され、飛騨信用組合のロボット企画にアイデア提供した。

参加教員のコメント

授業開始頃までには納品予定だったPepperが遅れるなど不安要素が大きかったが、いち早く授業に取り入れられたため、その後も各種展開へとつながった。大変だったが、IAMASらしい活動ができたと考えている。





IAMAS Annual Report 2014

連携先

サラマンカホール

プロジェクト名

サラマンカ電子音響音楽祭

連携場所

サラマンカホール・ふれあい福寿会館
岐阜県立美術館
岐阜県図書館

担当教員

三輪眞弘

協力者／参加学生

IAMAS教員、在学生、卒業生
JSEM (日本電子音楽協会・共催)
JSSA (先端芸術音楽創作学会・共催)
九州大学感性総合デザインセンター
名古屋市立大学芸術工学部

連携期間

2014年5月 - 2015年9月

サラマンカ電子音響音楽祭

プロジェクトの目的

「メディア・アート」という言葉が一般化し、(電力・)電子化された現代社会における私たちの新しい文化や芸術の在り方が模索される中、電子音響音楽 (Electro Acoustic Music) はその歴史的な考証と共に近年、新たな展開を見せつつある。それは、他の様々な分野と同様、生まれた時から高度なテクノロジーが「すでにそこにあった」世代にとって「装置による表現」こそがもっとも身近なものであり、何かを考え、伝える立脚点となっているからに違いないからである。

「歴史・現在・子供たちへ」をテーマに掲げた3日間わたるこのフェスティバルでは、最新のデジタル技術による現代の作曲家達による新作初演はもとより、電子音響音楽黎明期の歴史的な名作の紹介、ゲスト・アーティストによるパフォーマンス、未来の音楽文化を考えるシンポジウム、そして子供たちに向けたワークショップなどが開催され、それらは音楽の専門家のみならず、この分野に親しみの少なかった多くの人々にも「装置による音楽・芸術」の楽しさと可能性を体験する機会となるだろう。それはまた、テクノロジーを用いた様々な「人間の表現」が、逆にテクノロジーそのものを逆照射し、人間にとってのテクノロジー、延いては私たちの文化というものを再考するための貴重な契機となるはずである。

今回、長良川のほとりに位置し、その美しい響きで知られるサラマンカホールを会場とすることは、サラマンカホールが西洋音楽の歴史を伝え、未来の音楽を発信する「場」であることを示すものである。同時に、この催しは、日本では珍しい「クラシック音楽の舞台での電子音響音楽祭」であり、この分野における国内最大のイベントとなる。



連携のプロセス

先端的技術と芸術的創造との融合を掲げてきたIAMASと同じ岐阜県内のサラマンカホールは、JSEM（日本電子音楽協会）とJSSA（先端芸術音楽創作学会）の全面的な協力を得、国内外の電子音響音楽関係アーティストや研究者を一同に集めて「サラマンカホール電子音響音楽祭」は開催された。

1 連携のきっかけ

以前からサラマンカホールより作曲家として三輪眞弘との連携企画の提案があり、それに応える形で今回のフェスティバルは計画された。加えてIAMAS主催のワークショップをはじめ、岐阜県立美術館との連携によるサテライトコンサートや展覧会なども同時開催された。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年度

- 5月：サラマンカホールより企画の初打ち合わせ
- 7月：JSSA、JSEM幹部に共催の打診
- 8月：IAMAS学内に企画を周知
- 9月：制作協力会社と打ち合わせ
- 10月：助成金申請

2015年度

- 1月：最初のフェスティバル原案を作成、協力団体会員に告知
- 3月：関係者用MLを作成
- 5月：SNS専用ページ開設
- 6月：リーフレット、ウェブサイト完成
- 9月11日-13日：フェスティバル本番

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

サラマンカホールとの共同主催団体としてフェスティバル全体の企画や機材の貸出に協力し、その他、関連イベントやワークショップを企画、実施した。

連携の成果

入場者数は、1日目計168人、2日目計235人、3日目計233人で、ほぼ期待した来場者数だった。また、県内のみならず協力団体の会員はもとより、全国から高い関心をもった聴衆を集めた。

参加教員のコメント

大規模なイベントをとにかく無事成功させた。このような形でIAMASと県内の文化施設であるサラマンカホール、岐阜県美術館との連携が実現したことの意義は大きく、さらなる展開にも期待したい。



リハーサル風景。九州大学の協力によりこのフェスティバルのために運びこまれた数十のスピーカーをホール全方向に配置し、音響を入念にチェックする檜垣智也氏



岐阜県美術館でのサテライト・コンサート、「IAMAS SOUND ARCHIVE」に「ゾンビ音楽」で出演する安野太郎氏



フェスティバルのゲストとして来日し、自作品のオペレーションを担当するリチャード・バレット氏



ホールが誇るパイプオルガンの伴奏でフォルマント兄弟の「スターバト・マーテル」を歌うさかいれいしう氏と人工音声を「弾く」岡野勇仁氏、オルガン演奏は今村初子氏





IAMAS Annual Report 2015

連携先

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜
岐阜大学

プロジェクト名

「岐阜・風景映画」プロジェクト
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜
共同プログラム

連携場所

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜

担当教員

前田真二郎教授

協力者／参加学生

【履修メンバー】

IAMAS：杉山雄哉、岡崎友恵、
丹羽彩乃、塚原真梨佳、
具志堅裕介（音楽制作）

岐阜大学：石牟禮晃次、田中龍稀、
小林雅規、川合菖太

【協力】

IAMAS HD II 高精細映像技術を用いた表
現研究プロジェクト

連携期間

2015年6月 - 7月

「岐阜・風景映画」プロジェクト ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 共同プログラム

プロジェクトの目的

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜加盟機関の学生が「風景映画」の制作を通じ、岐阜の風景を再発見します。共同制作を体験することで、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養います。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜からIAMAS事務局に、映像制作実習をベースとしたカリキュラムへの参画依頼があった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2015年6 - 7月の毎週土曜にIAMASで開催。（全4回）

第1回（6月27日）

自己紹介・「風景映画」参考作品の上映とレクチャー
チーム決定・課題の説明

第2回（7月4日）

各チーム、企画のプレゼンテーションとディスカッション
ワークショップ：規則と即興による「風景映画」（撮影・編集・上映）

第3回（7月11日）

各チーム「風景映画」の制作
（レンタカーを活用した遠方での撮影、ナレーションの録音など）

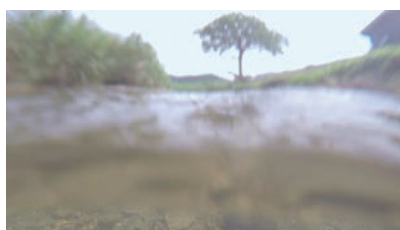
第4回（7月18日）

プロダクションノートの作成
完成試写 合評とディスカッション

3本の完成作品は動画共有サイトにアップされ、また、7月後半に開催されたIAMAS OPENHOUSE の会場で上映された。

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

全4回のワークショップを計画し、IAMASにて開催した。



teamA "Landscape Ijirako ~ Nagaragawa"



teamC 郡上八幡での風景撮影



teamB "遡上"



teamC "People in the Landscape"

連携の成果

岐阜大学とIAMASの混成チーム3組がそれぞれ5分～15分の「風景映画」を完成させた。共同作業による制作を体験し、岐阜の風景について考察した。

参加教員のコメント

履修生は本学大学院1年生と岐阜大学1、2年生だった。映像制作経験の差に加えて年齢差もあることから、ユニークな共同作業が展開した。





IAMAS Annual Report 2015

連携先

主催：岐阜県
大垣市

後援：岐阜県教育委員会
大垣市教育委員会

協賛：(公財)十六地域振興財団
OKB大垣共立銀行

協力：だるまジャパン(同)
サンメッセ(株)

プロジェクト名

岐阜おおがきビエンナーレ2015
—Cracks of Daily Life 日々の裂け目

連携場所

ソフピアジャパン・センタービル

担当教員

安藤泰彦教授(総合ディレクター)

連携期間

2015年7月 - 12月

運営

岐阜おおがきビエンナーレ2015 実行委員会：
安藤泰彦、吉田茂樹、小林昌廣、瀬川晃、
前田真二郎、三輪眞弘、八嶋有司

展示構成：安藤泰彦、小杉美穂子

企画制作・進行：高尾俊介、八嶋有司

撮影・記録：伊藤大作、高嶋浩

デザイン：伊藤晶子、ジェームズ・ギブソン、瀬川晃

WEB：星卓哉

翻訳：マシュー・ドリュー

展示設営責任：トリガーデバイス

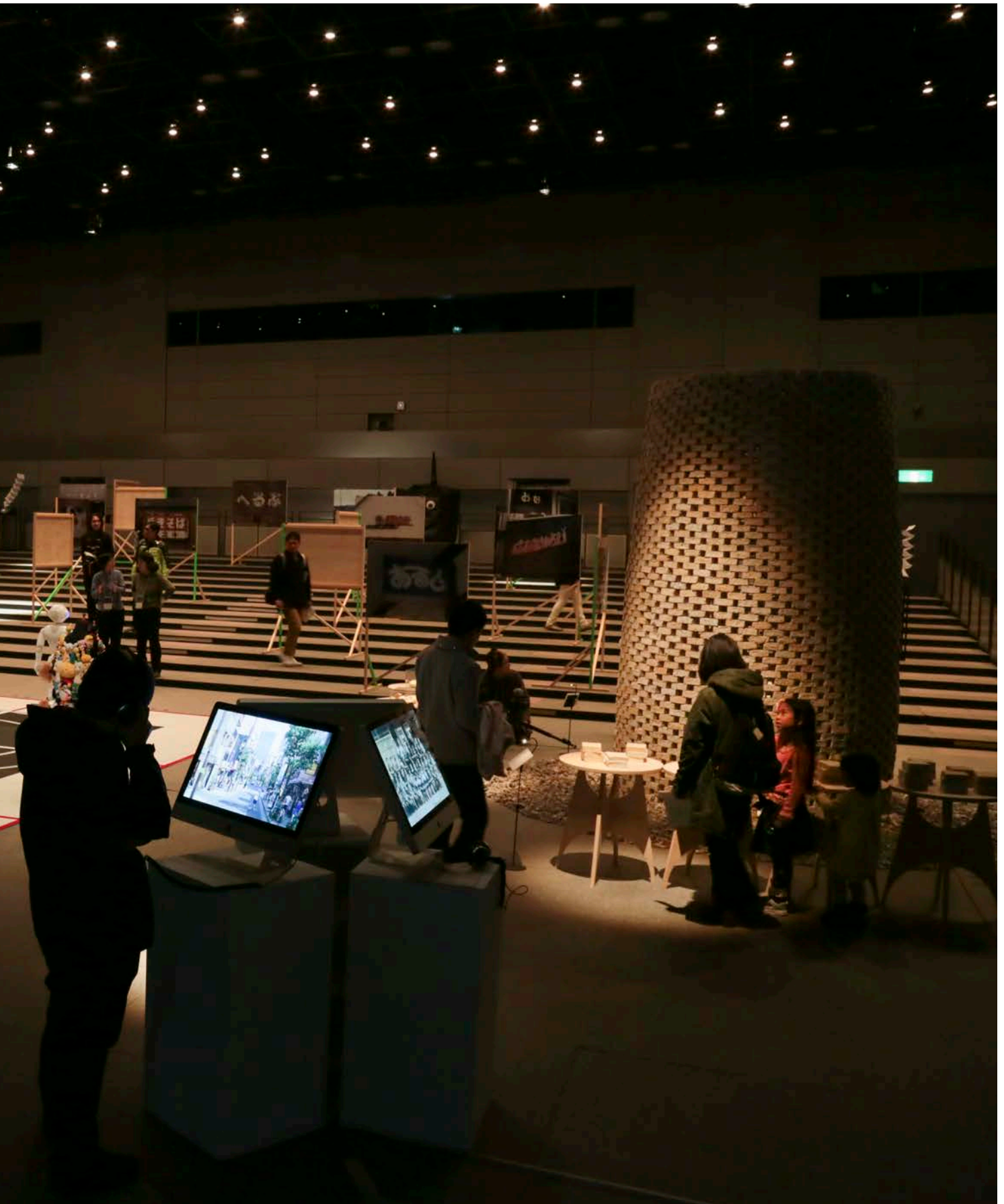
岐阜おおがきビエンナーレスタッフ：
池田泰教、上山朋子、大石桂誉、高見知里

学生スタッフ：後藤良太、佐野和哉、嶋田元菜妃、
ジョ・ジェヨン、杉山雄哉、高井奈々、塚原真梨佳、
丹羽彩乃、丸山透、村上裕、山本美里

参加作家・講演

赤松正行、岡本光博、クワクボリョウタ、
ジェームズ・ギブソン+ TAB、仙頭武則、
田尻麻里子、田中広幸、塚本美奈、廣瀬周士、
福本浩子、前田真二郎、松井茂、小林昌廣、
松島俊介、三輪眞弘、八嶋有司、
IAMASメディアサイト研究会、MM Lab.、
エルキ・フータモ、吉岡洋





「岐阜おおがきビエンナーレ2015」会場風景

岐阜おおがきビエンナーレ2015

—Cracks of Daily Life

日々の裂け目

プロジェクトの目的

2年おきに開催されるビエンナーレを通して、市民に新しい芸術や文化の試みに触れる機会をふやす。

連携のプロセス

岐阜県と大垣市の共催による「岐阜おおがきビエンナーレ」は、2004年から隔年5回に渡り、大垣市内各所での展示を中心として開催されてきた経緯がある。しかし前回2013年と今回のビエンナーレは、本学旧校舎やソピアホールなどを使い、地域分散型ではない展示となっている。これはIAMASアカデミーが廃止されたことによる運営側の人的規模の縮小や総予算の縮小などの物理的側面もあるが、以前に比べ地域との産学連携事業が日常的に行われるようになったこと、また「ビエンナーレ」が地域おこしというイメージで語られてしまう現在の状況に対し、アート展示・イベントの新たな可能性を見せるものとして「ビエンナーレ」のあり方をあらためて提示することが必要と思われたことによる。

1 連携のきっかけ

1995年から隔年4回に渡り、岐阜県と大垣市の共催により「世界メディア文化フォーラム」(「インタラクティブ」展、国際シンポジウム)が開催された。その後、2004年から大垣市内各所での展示を中心として「岐阜おおがきビエンナーレ」が過去5回開催された。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

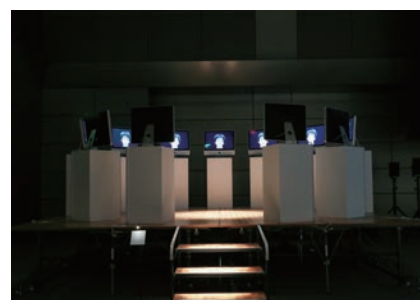
7月：テーマ設定、展示場所(展示期間)の調査
9月：最終予算の決定、展示場所と展示期間の設定
10月-11月：全体展示プランの決定 参加作家の決定
12月上旬：イベント内容の決定と展示設営準備 広報
12月14日-12月18日：会場搬入・作品設置
12月18日：前夜祭
12月19日-12月23日：岐阜おおがきビエンナーレ2015
12月24日：会場撤去・搬出

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

学内の多くの教職員によってビエンナーレの展示・運営の協力体制が組まれると同時に、数名の教員が展示やパフォーマンス・映像上映などのアーティストとしてビエンナーレに関わった。



Gift クワクポリョウタ



VOICE-PORTRAIT Remix2015 松島俊介



Nothing Parts 71 (仙頭武則監督) 上映後のトークイベント



roots 廣瀬周士



トランス・フロア2 IAMASメディアサイト研究会



アーティストトーク



The Dive – Methods to trace a city 八嶋有司



La Biblioteca- バベルの図書館- 福本浩子



LIFEjacket シリーズ 岡本光博



量子詩 松井茂



ノイズ+ 木立の向こうの言語標本 田中広幸

連携の成果

個々の作品が展示される会場自体を新たなイメージで構成するという試みや、作品展示とイベントの共存の試みは、ビエンナーレという芸術展示・イベントの場自体の可能性を広げるものと思われる。

参加教員のコメント

今回のビエンナーレは、展示空間が上映空間となりライブ空間ともなる時間的なプログラムによって構成されている。このような実験的な試みは、音響・映像・照明・設営などのテクニカルな能力を持ち、柔軟な動きをとれる運営スタッフがいることによって始めて可能になるものであると、あらためて感じた。





IAMAS

Annual Report

2015

連携先

岐阜県美術館
岐阜県立国際園芸アカデミー
岐阜県立国際たくみアカデミー
岐阜県立森林文化アカデミー

プロジェクト名

アートまるケット

連携場所

岐阜県美術館

担当教員

金山智子教授
八嶋有司研究員

協力者／参加学生

篠田幸雄
大島哲郎
ジョ・ジェオン
後藤良太
富塚裕美

連携期間

2015年1月 - 12月

アートまるケット

プロジェクトの目的

岐阜県美術館庭園で開催された特別企画展「アートまるケット」の作品「花は色の棲み家」に、岐阜県立アカデミー三校（国際園芸アカデミー、国際たくみアカデミー、森林文化アカデミー）と共に制作協力した。本学は表現に関わる展示やワークショップなど企画・展示を行なった。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

アートまるケットのディレクターであり、県美術館の日比野克彦館長より本学へ制作協力があつた。本学では、作品、ワークショップ、ラジオ放送など、全部で6つの企画制作を学生有志と教員で行なった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2月 - 4月 : 4校の教員と日比野克彦氏による企画打合せ

4月 - 7月 : 各校の担当や企画の決定

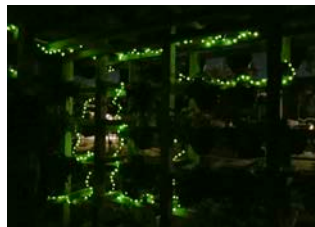
8月 - 12月 : 製作、設営、展示

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

他の三校や美術館との協力体制や企画などの案出しから実施に至るまで、かなり関わるようになった。学生有志による企画をIAMAS案として提示し、協議を経て制作・実施に至った。



美術館の庭園で開催されたアートまる
けっと



暗闇に光るLEDの蛍たち



「花木のささやき」は庭園で使われた花
をモチーフにしたスタンプ



大垣のおばあちゃんたちによるローズカ
フェには100人以上が来場



すすきで作るほうきのワークショップは
大人気



県立岐阜農林高校の生徒をパーソナリ
ティにしたミニFM「花ラジ」

連携の成果

岐阜県立の3つのアカデミーとの共同作業、県立美術館の作品への制作協力、そして、長期間（三ヶ月半）に亘る展示と、学生教員共々、貴重な経験をする事ができた。

参加教員のコメント

構想から実施まで長期にわたる連携で学ぶことが多く、また、異分野の研究者との共同作業は実に刺激的であった。

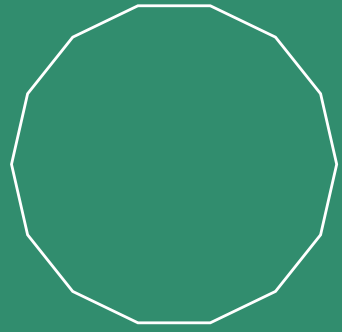




ポッドキャスト「ヒアス」 #2 収録風景 (ゲスト…小林茂教授 聞き手…松井茂准教授、城二裕講師)



授業風景 (メディア表現基礎)



IAMAS

Annual Report

2015

地域社会



IAMAS

Annual Report

2015

連携先

揖斐川ワンダーピクニック実行委員会
浄土宗一心寺
三輪神社
北野神社

プロジェクト名

揖斐川町地獄絵スタンプラリー

連携場所

揖斐川町

担当教員

金山智子教授
高尾俊介研究員
高見知里技術支援専門職

協力者／参加学生

富塚裕美
後藤良太

連携期間

2014年10月 - 2015年5月

揖斐川町地獄絵スタンプラリー

プロジェクトの目的

2015年5月31日に揖斐川町でタウンフェスティバル「揖斐川ワンダーピクニック」が開催された。本プロジェクトはこのタウンフェスティバル内において、地域に保存された文化資源としての「地獄絵」と、デジタルファブリケーションツールを用いた地域振興へと繋がる取り組み「揖斐川町地獄絵スタンプラリー vol.1」を実施した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2014年10月、当時揖斐川ワンダーピクニックの実施を準備していた揖斐川町住民の方が産業文化研究センターを訪れた。催しを行うにあたって何か地域の特色を活かした取り組みができないかということで相談があった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年

12月17日：揖斐川町内及び会場付近の視察

2015年

3月下旬：企画内容の検討

4月中旬：デザインプロトタイプ制作開始

5月4日：一心寺で地獄絵の視察とヒアリング

5月中旬：デザイン制作

5月31日：イベント実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

イベントの企画から提案、プロトタイプ制作と実施までを行った。



イベント実施会場の視察の様子



地獄絵馬製作の様子



一心寺の地獄絵



制作した台紙とスタンプのデザイン

連携の成果

「揖斐川ワンダーピクニック」には約1万人が訪れた。また、「揖斐川町地獄絵スタンプラリー vol.1」はメディアで取り上げられた効果もあり、家族連れを中心に500人を越える参加者があった。

参加教員のコメント

産業文化研究センターは、いわゆる産学官連携のハブとして学内の研究活動と学外のつなぎ込みを行ってきたが、今回初めて連携の主体となって、地域社会と関わる形で研究活動を発表できた。今後もこういった取り組みを継続していきたい。





IAMAS Annual Report 2015

連携先

丸重製紙
美濃市役所
美濃観光協会
うだつの町並みの商店と住民の方々
芸術村工房
廠の手漉き和紙職人さんたち
F.A.C.E.project

プロジェクト名

3年目の美濃のいえ

連携場所

美濃のいえ
うだつの上がる町並み

担当教員

金山智子教授

協力者／参加学生

石川琢也
杉山雄哉
後藤良太
ジョ・ジェヨン
富塚裕美

連携期間

2013年 - 2015年度

3年目の美濃のいえ

プロジェクトの目的

2013年より美濃のうだつの町並みの真中にある古民家を借り、美濃のいえとしてさまざまな表現活動を行なってきた。1年目は、古民家と伝統ある町並みといった場所を意識して作品展示やイベント、ワークショップなど、さまざまな表現活動を実施した。2年目は、まちのヒトやモノにより注目し、地元の和紙や美濃のいえの庭に作った石窯を用いて、地域の人たちが参加できる活動へ展開した。3年目の今年は、野菜やハーブの栽培や食をテーマにしたイベントや活動、活版印刷の模索と、地域の人たちがこれまで以上に関わり、やりたい活動を企画・実行できるような地域主導へと転換しながら、うだつの町並みの地域活動拠点となる可能性を模索した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

町の真中に位置する美濃のいえは、展示やイベントを通して、町の和紙工場経営者、手漉き和紙職人、商店主、アーティスト、大工、飲食店、自治体職員、学校教員など、さまざまな地元の人たちとつながり始めた。その中から、地元の人に持ち込まれた古い活版印刷機は、美濃のいえでの新しい表現活動の大きな柱となった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

4月 - 12月 : 石窯開放 / 松の倒木 / ガーデンづくりと収穫 / 手漉き和紙づくり見学
5月 - 12月 : 活版印刷整理と設置、棚作り、講習会、製作
8月 : 桂文治師匠「真夏の夜の怖いお話し」開催
10月 - 11月 : FACES project 展示

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

自分たちの活動の企画や運営と、地域の人たちが美濃のいえを使う活動の手伝い。



ファッションデザイナーによる和紙のドレスの展示



地元の人たちと食材を持ち寄って石窯で調理して食べる



菓子木型を使ってカラフルな和菓子を
つくって食べる



「真夏の夜の怖い噺」と題した桂文治師匠の落語



みんなで一緒にカレーを食べる晩餐会



自分たちでデザインした版を使って年賀状を活版で印刷

連携の成果

これまでの活動を通して構築された関係をもとに、地域の人たちが美濃のいえでやりたいことが生まれ、それを軸に美濃のいえが地域の活動拠点になりつつある。今年には地域の人たちと企画会議をもち、美濃内外のクリエイターの参加も活発となり、観光業が中心のうだつの町並みの中で、新しい地域コミュニティのクリエイティブな居場所となるような動きになっている。

参加教員のコメント

地域内外の人たちが緩くつながり、美濃のいえが地域の人たちの表現活動の場となっていく可能性を実感し、今後の展開が楽しみである。





IAMAS Annual Report 2015

連携先

共催：(株)飛騨の森でクマは踊る(ヒダクマ)
協力：トロテック・レーザー・ジャパン(株)

プロジェクト名

第4回 展開図武道会
～この椅子いいっすね!

連携場所

FabCafe Hida (岐阜県飛騨市)

担当教員

小林茂教授
山下健研究補助員
高見知里技術支援専門職

協力者／参加学生

後藤正保
佐野和哉

連携期間

2015年6月 - 10月

第4回 展開図武道会 ～この椅子いいっすね!

プロジェクトの目的

「展開図武道会～この椅子いいっすね!」は、統一した制約条件のもとでツールを製作し、プロダクトしての完成度を競うことを通じてデジタルファブリケーションの可能性を探求することを目的としたコンテストである。コンテストのルールは、3つの狙いのもと設計した。まず、意匠に加えて強度を考え設計する必要が生じるツールをモチーフにすることで、ものづくりの楽しさである試行錯誤を体験してもらうようにした。そして、すべての作品を展覧会で展示することで、多くの来場者に見てもらえるようにするとともに、コンテストの参加者同士がお互いに経験やノウハウを共有し、コミュニティを形成できるようにした。くわえて、デジタル工作機械があれば作品を再現できるデータ「展開図」をオンラインで共有することで、派生物が生まれやすくと同時に、この活動が世界中に拡がるようにした。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

我々の活動に関連の深い木工×FABをテーマとする「ヒダクマ秋祭り2015」を主催するヒダクマより、デジタルファブリケーションで出来ることや、それらがもたらす可能性を認知してもらう機会としてイベントを共同開催したいという要望があり、取り組むこととした。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

6月：キックオフ
7月：役割分担などの打合せ
8月：参加者募集のチラシと挑戦状を制作し郵送
挑戦状のパーツは、3Dプリントデータ共有ウェブサービス Thingiverseへ公開
8月24日：参加募集開始
9月 - 10月：イベント開催準備、参加者対応
10月16日：会場設営
10月17日・18日：ヒダクマ秋祭り2015会場内で実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

展開図武道会にまつわる企画、運営、広報物の制作を行った。開催当日は、製作のデモを行うことでレーザー加工機の活用方法を提示し、開会式や表彰式などで展開図武道会についての説明を行った。



Skypeによる打合せの様子



告知のための挑戦状グッズ



会場のFabCafe Hida外観



ツールを来場者と一緒に組み立てるデモの様子



作品紹介をUSTREAMで配信している様子



人型に変形するツールを説明する参加者



ツールを説明する参加者

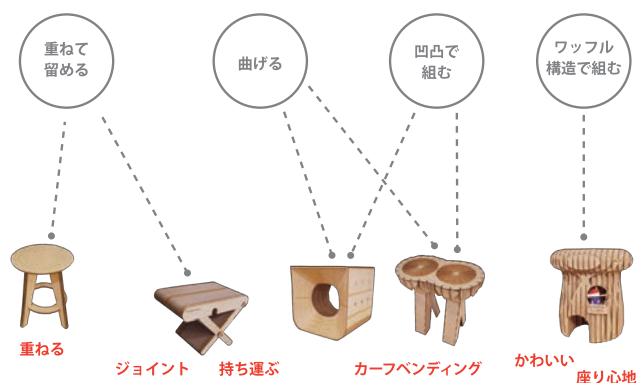


表彰式



参加者のみなさんと集合写真

2012



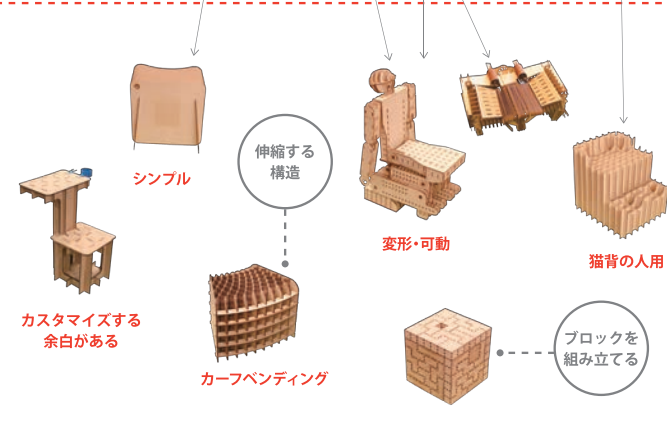
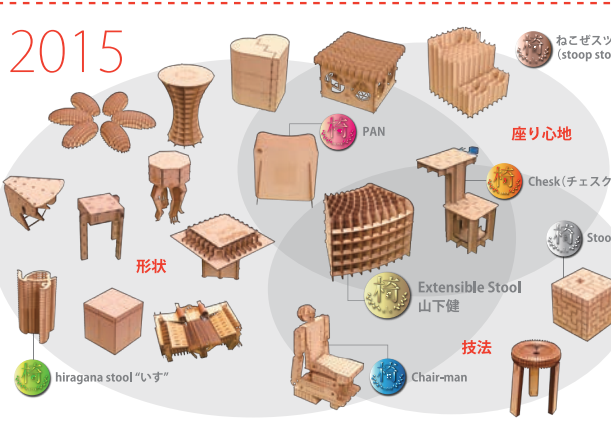
2013



2014



2015



成果物の変化

展開図武道会～この椅子いっすね!は、2012年より4回実施している。第1回は「一歩さがって、二歩すすむ」展、第2回は「Maker Faire Tokyo 2013」、第3回は「Ogaki Mini Maker Faire 2014」会場内で開催し、今回実施した第4回を含めると全国各地から61作品が出展されている。図左側は、4回のコンテストに出展されたスツールを投票のコメントを参考に、座り心地と技法、形状でマッピングしたものである。

2012年は格子状に板を組み合わせて立体にするワッフル構造で作られた椅子が多く出展された。その中でも座り心地がよく安定感があり、可愛いスツール「きのこスツール」が圧倒的に人気を博した。2013年は座り心地と美しさを備えた「Bowl chair」が1位。木材で切り株をつくった「natural chair」、蜘蛛が身を隠すために椅子に変身する「i-spider」などストーリー性があるものが来場者の目をひいた。2014年は形状の面白さに挑戦した作品が多くみられた。その中でもくると動く+誰もつくろうとは思えない様なパーツ数で作られた「Wheel Stool !!!」が1位 & 小林茂賞を受賞した。2015年は過去最多の作品数の18作品。第1回から使われているカーフベンディングという手法を利用しつつも差し込むパーツによって伸縮し形状が変化する「Extensible Stool」が1位。より複雑なつくり挑戦する作品が増え、形状だけでなくコンセプトがしっかりしたものが多かった。

また図右側は、開催を重ねることによって生まれた新たな作り方の特徴(技法・コンセプト)の連鎖を図解したものである。改良した派生作品や、より面白い技法や目を引くスツールが生まれているのが4年続けてみるとわかる。

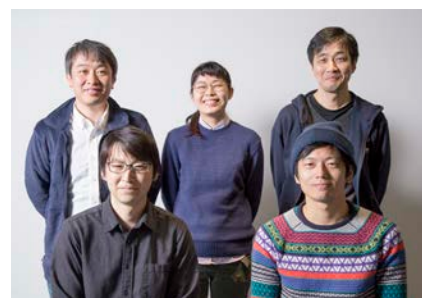


連携の成果

レーザー加工機などのデジタル工作機械と共に製作したスツールを見てもらうことで、デジタルファブリケーションの面白さを提示できた。また、参加者と来場者、参加者同士の意見交換をする場として機能した。

参加教員のコメント

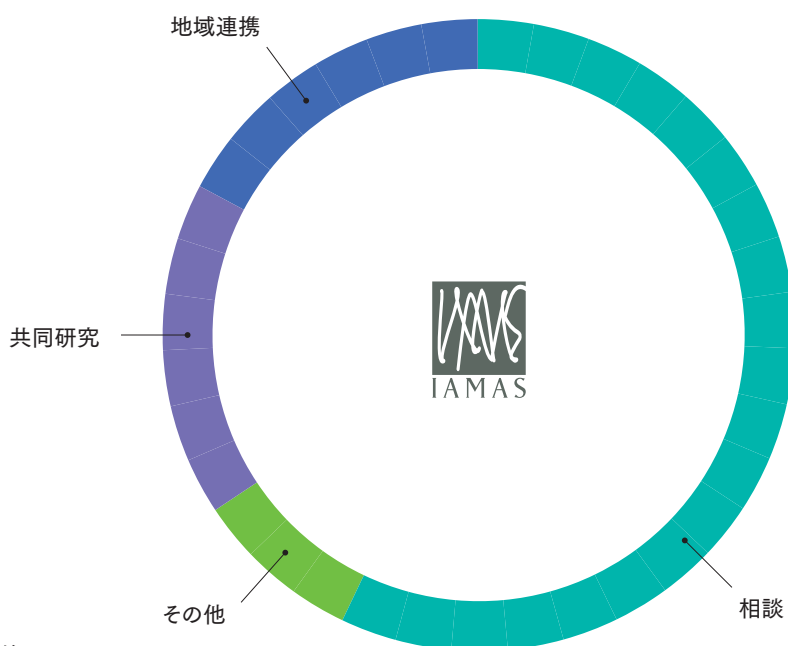
過去3回は短期間のイベント会場での開催だったのに対して、第4回は今後も継続して活動する拠点での開催。今回のイベントをきっかけに飛騨でどんな動きが起きていくのかについて引き続き注目し、連携していきたい。



スツール製作条件 [第4回版]

1. 材料は2.5mm厚 MDF サブロク板2枚以内、3Dプリントされた出力物であること
 2. 接着剤やネジ等、その他の材料は使用禁止
 3. 加工機材はレーザー加工機、CNC ルーター、CNC ミリングマシンおよび3Dプリンターに限る
 4. 塗装・やすりがけ仕上げは不可
 5. 大人が座れるサイズ、強度であること
 6. 同等の機材と材料を揃えれば再現可能であること
 7. 作成データを公開すること
- 本応募切までに Instructables (<http://www.instructables.com/>) および Thingiverse (<https://www.thingiverse.com/>) へ加工データの投稿
 - 公開データの形式は、2DデータはPDF形式、3DデータはIGES形式もしくはDXF形式などの編集ができる形式
 - 完成写真および製作製作過程の写真(どちらも数枚)必須

2015年度連携事例 全リスト



共同研究：

民間企業等の研究者と本学の教員が、
共通の課題に対して対等な関係で行う研究

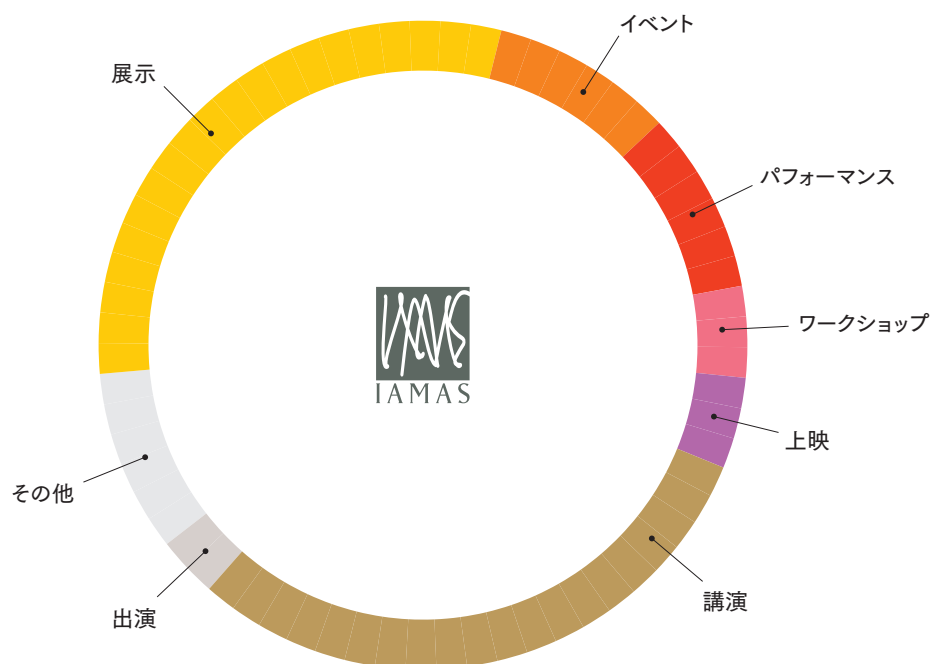
地域連携：

岐阜県内の企業や NPO 法人等の団体と本学の教員が、
地域の課題解決を目的として連携した事例

No.	連携区分	研究名称	企業名/組織名	場所	担当教員等
1	共同研究	APIを提供する工作機械の評価及びそれを適切な理解の元で普及させるための方法のデザイン並びにその実行に関する共同研究	ローランド ディー.ジー.(株)	岐阜県大垣市	小林茂教授
2	共同研究	点光源を利用した新しい映像表現の研究に関する共同研究	(株)TRUNK	岐阜県大垣市、 東京都港区	クワクポリョウタ准教授
3	共同研究	根尾コ・クリエイション (根尾地区における共創手法を通じた地域再生の研究)	グレイセル(株) (株)TAB	岐阜県本巣市	金山智子教授 小林孝浩教授 ジェームス・ギブソン准教授
4	共同研究	地域の集合的記憶の記録と想起の促進に関する研究	(株)マナビノタネ	宮城県石巻市	鈴木宣也教授
5	共同研究	「オープンイノベーション」の手法の一つである「ハッカソン」「メイカソン」をより一般に普及させるための、現状の問題点認識と実施フローの確立	AOLオンライン・ジャパン(株)	東京都千代田区ほか	小林茂教授
6	共同研究	映像・コミュニケーション領域における新たなデザイン価値創造	パナソニック(株) AVCネットワークス社	大阪府門真市	鈴木宣也教授 赤羽亨准教授
8	地域連携	一心寺地獄絵を使った地域振興の取り組みに関する相談	揖斐川ワンダーピクニック実行委員会 浄土宗一心寺 三輪神社 北野神社	岐阜県揖斐郡 揖斐川町	金山智子教授 高尾俊介研究員 高見知里技術支援専門職
9	地域連携	長良川鉄道との連携相談	長良川鉄道(株)	岐阜県関市	金山智子教授 平林真実教授
10	地域連携	OKBストリート・ラッピングバスのデザイン	(株)大垣共立銀行	岐阜県大垣市	金山智子教授 平林真実教授 高尾俊介研究員

No.	連携区分	研究名称	企業名/組織名	場所	担当教員等
11	地域連携	「ミズマクおおがき2015 StartingPoint～大垣の新進美術家たち」カタログデザイン	(公財) 大垣市文化事業団	岐阜県大垣市	瀬川晃准教授
12	地域連携	タリコネクション	垂井町観光協会	岐阜県不破郡垂井町	前田真二郎教授
13	地域連携	樽見鉄道での移動体を使った企画	樽見鉄道(株)	岐阜県本巣市	金山智子教授 高尾俊介研究員
14	相談	電子音響音楽祭広報物(リーフレット・Webサイト)デザイン制作	ふれあい福寿会館	岐阜県岐阜市	三輪眞弘教授 瀬川晃准教授
15	相談	岐阜県立森林文化アカデミー ウェブサイトのリニューアル	岐阜県立森林文化アカデミー	岐阜県美濃市	瀬川晃准教授 高尾俊介研究員
16	相談	水道を使った高齢者の見守りサービスのアプリケーション開発	(特非) つくしん棒	岐阜県郡上市	山田 晃嗣准教授
17	相談	3Dスキャン技術を応用した鍼灸技術支援についての相談	(株) ユニド・コーポレーション	岐阜県各務原市	小林孝浩教授
18	相談	十六銀行赤坂支店移転に関連したイベントについての相談	(株) 十六銀行	岐阜県大垣市	瀬川晃准教授
19	相談	岐阜県美術館 SNS 運用及び通信環境整備	県民文化の森 岐阜県美術館	岐阜県岐阜市	金山智子教授 高尾俊介研究員
20	相談	音声認識技術の応用についての相談	ソフリング(株)	岐阜県大垣市	高尾俊介研究員 北村茂範(教務課)
21	相談	高精細映像の配信等の研究についての相談	さくらインターネット(株)	東京都新宿区	前田真二郎教授
22	相談	駅前ビル(Apio)の再開発に関する相談	(株) スペース	岐阜県大垣市	金山智子教授
23	相談	養老公園でのPepper稼働に関する相談	タック(株)	岐阜県養老郡養老町ほか	小林孝浩教授
24	相談	大垣駅商店街周辺での連携に関する相談	(特非) 水都まちづくり	岐阜県大垣市	高尾俊介研究員
25	相談	商品開発の共同研究に関する相談	凸版印刷(株)	大阪府大阪市	高尾俊介研究員
26	相談	海水濾過装置のビジネスモデル構築に関する相談	三相電機(株)	兵庫県姫路市	小林孝浩教授 高尾俊介研究員
27	相談	ドローンに関するプレゼンテーション	(株) One Groove	岐阜県大垣市	吉田茂樹教授
28	相談	IAMASの産学連携状況に関する問い合わせ	岐阜信用金庫	岐阜県岐阜市	北村茂範(教務課)
29	相談	デジタルサイネージの活用に関する相談	NTT西日本岐阜支店	岐阜県岐阜市	北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
30	相談	十六銀行関連企業の提灯制作に関する相談	(株) 十六銀行 岐阜工芸(株)	岐阜県岐阜市	小林茂教授 高尾俊介研究員
31	相談	プラチナプラザでの連携に関する相談	(特非) 多目的交流サロン プラチナプラザ	岐阜県大垣市	小林孝浩教授 瀬川晃准教授 高尾俊介研究員
32	相談	ドリームコア入居企業からの事業内容に関する相談	(公財) ソフトピアジャパン	岐阜県大垣市	高尾俊介研究員
33	相談	音楽関連ビジネスアイデアに関する相談	エイブル(株)	岐阜県大垣市	金山智子教授 北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
34	その他	授業「モチーフワーク」内でのMESHの活用	ソニー・デジタルエンタテインメント・サービス(株)	岐阜県大垣市	クワクポリョウタ准教授
35	その他	仙台市産業振興事業団視察	(公財) 仙台市産業振興事業団 仙台市	岐阜県大垣市	金山智子教授 高尾俊介研究員 北村茂範(教務課)

2015年度 IAMAS 関連イベント 全リスト



No.	区分	名称	実施期間	場所(市区町村)	担当教員等
1	展示	「ARアートミュージアム」～動き出す不思議な絵～	2015年3月27日 - 5月10日	愛知県名古屋市	赤松正行教授
2	展示	リレーショナル・ポッド 光の水をつかまえて!	2015年3月28日 - 5月6日	岐阜県大垣市	安藤泰彦教授
3	展示	ミラノサローネ「Imagine New Days」	2015年4月14日 - 4月19日	ミラノ トルトーナ地区、イタリア	クワクポリョウタ准教授
4	展示	再生される肌理 III	2015年4月21日 - 4月26日	愛知県名古屋市	前田真二郎教授 瀬川晃准教授
5	展示	マテリアライジング展 III 情報と物質とそのあいだ	2015年5月16日 - 6月21日	京都府京都市	松井茂准教授 城一裕講師
6	展示	オープン・スペース 2015	2015年5月23日 - 2016年3月6日	東京都新宿区	瀬川晃准教授 松井茂准教授 城一裕講師
7	展示	企画展「動きのカガク展」	2015年6月19日 - 9月27日	東京都港区	クワクポリョウタ准教授
8	展示	「ARアートミュージアム」～動き出す不思議な絵～ 四日市展	2015年7月28日 - 8月19日	三重県四日市市	赤松正行教授
9	展示	アートまるケット 日比野克彦ディレクション「花は色の棲家」	2015年9月5日 - 12月13日	岐阜県岐阜市	金山智子教授
10	展示	IAMAS ARTIST FILE #03 BEACON 2015 LOOK UP!	2015年9月10日 - 10月12日	岐阜県岐阜市	安藤泰彦教授
11	展示	第4回 展開図武道会 ～この椅子いいすね!	2015年10月17日 - 10月18日	岐阜県飛騨市	小林茂教授 山下健研究補助員 高見知里技術支援専門職
12	展示	羽島光陰	2015年10月24日	岐阜県羽島市	赤松正行教授 八嶋有司研究員
13	展示	IAMAS WORKS	2015年11月1日 - 11月29日	岐阜県大垣市	安藤泰彦教授
14	展示	福祉用具・介護ロボットフェア	2015年11月17日	岐阜県岐阜市	山田晃嗣准教授 小林孝浩教授
15	展示	SIAF ラボ アーティストセレクション クワクポリョウタ《LOST#13》	2015年12月11日 - 2016年1月11日	北海道札幌市	クワクポリョウタ准教授

No.	区分	名称	実施期間	場所(市区町村)	担当教員等
16	展示	大垣駅南北自由通路・光プロジェクト 2015 『トランス・フロア2 Trans-Floor2』	2015年12月11日 - 12月13日	岐阜県大垣市	安藤泰彦教授 平林真実教授 小林孝浩教授
17	展示	岐阜おおがきビエンナーレ2015	2015年12月19日 - 12月23日	岐阜県大垣市	安藤泰彦教授 赤松正行教授 小林孝浩教授 小林昌廣教授 前田真二郎教授 三輪眞弘教授 クワクポリョウタ准教授 瀬川晃准教授 松井茂准教授 James Gibson 准教授 八嶋有司研究員 高尾俊介研究員 池田泰教システム管理専門職 大石桂誉システム管理専門職 星卓哉情報支援専門職 高見知里技術支援専門職
18	展示	メリーからクリスマス	2015年12月19日 - 12月25日	岐阜県大垣市	金山智子教授 平林真実教授
19	展示	触楽展 II	2016年1月8日 - 2016年1月14日	愛知県名古屋市	鈴木宣也教授 赤羽亨准教授
20	展示	ともに、つくる、つたえる、かなえる展	2016年1月16日 - 2016年2月15日	岐阜県岐阜市	瀬川晃准教授
21	イベント	美濃のいえ 公民家プロジェクト / more mino house public	2015年4月26日	岐阜県美濃市	金山智子教授
22	イベント	地獄絵スタンプラリー in 揖斐川ワンダーピク ニック	2015年5月31日	岐阜県揖斐郡揖 斐川町	金山智子教授 高尾俊介研究員 高見知里技術支援専門職
23	イベント	研究会「戦後日本におけるマス・メディア受 容と現代芸術の文化学」	2015年7月18日 - 7月19日	岐阜県大垣市	松井茂准教授 金山智子教授 赤羽亨准教授
24	イベント	奥美濃ソウルトレイン	2015年8月1日	岐阜県関市	金山智子教授
25	イベント	真夏の夜の怖い噺	2015年8月15日	岐阜県美濃市	金山智子教授 小林昌廣教授
26	イベント	TRAINSPOTTING	2015年11月21日	岐阜県大垣市	松井茂准教授 金山智子教授 赤羽亨准教授
27	パフォーマンス	「虹機械 公案-001」公開収録	2015年6月12日	岐阜県大垣市	三輪眞弘教授
28	パフォーマンス	マテリアライジング展 III クロージングイベント	2015年6月21日	京都府京都市	城一裕講師
29	パフォーマンス	サントリー芸術財団 サマーフェスティバル 2015	2015年8月26日	東京都港区	三輪眞弘教授
30	パフォーマンス	IAMAS SOUND ARCHIVE	2015年9月12日	岐阜県岐阜市	松井茂准教授
31	パフォーマンス	女声合唱団暁 第8回演奏会	2015年11月29日	東京都港区	松井茂准教授
32	パフォーマンス	インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティ バル2015	2015年12月19日 - 12月20日	京都府京都市	城一裕講師 三輪眞弘教授 小林昌廣教授
33	ワークショップ	生成音楽ワークショップ<鳴釜神事>	2015年9月13日	岐阜県岐阜市	城一裕講師
34	ワークショップ	IoT Boot Camp	2015年9月28日 - 9月29日	岐阜県本巣市	金山智子教授 小林茂教授 小林孝浩教授
35	ワークショップ	おむすび博「みんなで作る不思議なバッジ」	2015年11月8日	岐阜県大垣市	高見知里技術支援専門職 高尾俊介研究員
36	上映	イメージフォーラム・フェスティバル2015	2015年4月28日 - 6月28日	東京都新宿区	前田真二郎教授
37	上映	『波のした、土のうえ』上映会 + トークセッシ ョン	2015年11月10日	愛知県名古屋市	前田真二郎教授
38	上映	KINO-VISION 2015	2015年11月27日 - 11月29日	京都市下京区	前田真二郎教授

No.	区分	名称	実施期間	場所(市区町村)	担当教員等
39	講演	ネットワークコンソーシアム岐阜 公開講座「落語を笑遊する～噺家列伝」	2015年4月～2016年3月の 不定期金曜日	岐阜県岐阜市	小林昌廣教授
40	講演	イノベーションを引き起こす「共創型アプローチ」のすすめ これからのものづくりとエコシステムの姿	2015年5月14日	東京都千代田区	小林茂教授
41	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 公開 レクチャー第09回「金生山 明星輪寺」	2015年5月29日	岐阜県大垣市	前林明次教授
42	講演	第2回京都大学－稲盛財団合同京都賞シン ポジウム	2015年7月11日～7月12日	京都府京都市	三輪眞弘教授
43	講演	トリエンナーレスクール 第9回「Maker×Art Makerムーブメントが広げるアートの可能性」	2015年9月27日	愛知県名古屋	小林茂教授
44	講演	International Workshop on Time Series Data Sonification (TSDS2015)	2015年9月29日～9月30日	茨城県つくば市	城一裕講師
45	講演	POST「SESSION 3－テクノロジー×未来のもの づくり」	2015年10月11日	岐阜県大垣市	小林茂教授
46	講演	インターリンク：学生映像作品展 (ISMIE) 2015	2015年10月24日～10月25日	東京都練馬区	前田真二郎教授
47	講演	[Intermedia Theater] Constellation of Things (4) – Digital Objects Enchant and Mediate	2015年10月30日	ソウル特別市竜山 区、韓国	赤松正行教授
48	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 公開 レクチャー第10回「石徹白の小水力発電」	2015年11月7日	岐阜県大垣市	前林明次教授
49	講演	MakerCon Tokyo 2015 基調講演	2015年11月7日	東京都江東区	小林茂教授
50	講演	『あえかなる部屋 内藤礼と、光たち』上映＋ト ーク	2015年11月22日	東京都渋谷区	松井茂准教授
51	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 第 10回公開レクチャ「石徹白の小水力発電 －潜在的な自治のちから」	2015年11月7日	岐阜県大垣市	前林明次教授
52	講演	TOKYO WORK DESIGN WEEK 2015	2015年11月22日	東京都渋谷区	小林茂教授
53	講演	「SPINNING BARTHES 100歳のロラン・バル ト」ショート・プレゼンテーション	2015年11月7日	東京都中野区	小林昌廣教授
54	講演	第2回 岐阜 桂文治独演会	2015年11月22日	岐阜県岐阜市	小林昌廣教授
55	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 公開 レクチャー第11回「地の声、時の音を聞く」	2015年12月5日	岐阜県大垣市	前林明次教授
56	講演	アイドルの美学 ―アイドル文化をどのように語 るか？	2015年12月13日	神奈川県横浜市	小林昌廣教授
57	講演	水都おおがき演劇アゴラ2015「書く女」関連 企画講演「樋口一葉の一生について」	2016年1月25日	岐阜県大垣市	小林昌廣教授
58	講演	中小製造業のためのセミナー 自社製品づく りをはじめよう	2016年2月9日	岐阜県岐阜市	小林茂教授
59	出演	サキどり「“ファブ施設”でDIY大進化」	2015年7月5日	-	小林茂教授
60	出演	メ〜テレ「MADE IN FICTION」	2015年9月12日	-	市野昌宏研究補助員
61	その他	「光柙」のクラウドファンディング	2015年7月7日	-	小林茂教授
62	その他	「ファブ社会の基盤設計に関する検討会」報 告書の公表	2015年7月7日	-	小林茂教授
63	その他	IAMASという大学院大学 – Open House 2015 – インタビュー 「IAMASに来る人、 IAMASでできること」	2015年8月29日	-	城一裕講師
64	その他	コロカル『具印 × colocal「つくる」 Journal!』	2015年9月1日 2015年9月8日	-	金山智子教授 小林茂教授
65	その他	「雰囲気メガネ」のクラウド・ファンディング	2015年9月8日	-	赤松正行教授
66	その他	アンソロジー詩集『現代詩100周年』	2015年10月25日	-	松井茂准教授



IAMAS 産業文化研究センター (RCIC) スタッフ

2015年度

RCICセンター長	金山智子
教員	小林茂 瀬川晃
研究員	八嶋有司 高尾俊介
技術支援専門職	高見知里
情報支援専門職	星卓哉

IAMAS Annual Report 2015
—産業・地域連携報告—

2016年2月発行

監修 金山智子
編集 瀬川晃 高尾俊介
デザイン 小島邦康 (Artical inc.)
撮影協力 高尾俊介 八嶋有司
発行 IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)
印刷 日本印刷 (株)

IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)
〒503-0807
岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ24
www.iamas.ac.jp
0584-75-6606





表紙のデザインは年度のテーマカラーを用いており、本紙では 産業・文化・地域社会 と分野ごとに3つのセクションに分類されている。プロジェクトごとにどのように関わり進めたかが簡潔にまとめられ、わかりやすく写真を多用している。

This booklet's cover features IAMAS' 2015 color motif. The contents are divided into three section: industry, culture, and community. The booklet presents concise summaries of how the projects are related and how they progressed, using many pictures to make this easy to understand.

形態 無線綴じ製本
 サイズ 210mm x 297mm
 コンテンツ 連携成果の紹介
 連携事例+IAMAS関連イベント(共同研究、受託研究、地域連携、学校連携、連携協定、公開講座、展覧会、イベント)

Form Adhesive binding
 Size 210mm x 297mm
 Contents Joint research reports
 List of research + IAMAS-related events (joint research, commissioned research, local collaborations, interscholastic collaborations, partnership agreements, open lectures, exhibitions, events)

これまでIAMASで発行されたカタログ類をIAMASBOOKSとして再編成し、電子書籍化しました。
Catalogues previously published at IAMAS have been reorganized into IAMASBOOKS and turned into digital books.

使用方法 | How to use

PCで閲覧 | Via PC

①目次の使い方

- ・ Adobe Readerの場合
「しおり」機能を使って目次としてご利用いただけます。
- ・ Apple プレビューの場合
「サイドバー」を目次としてご利用いただけます。

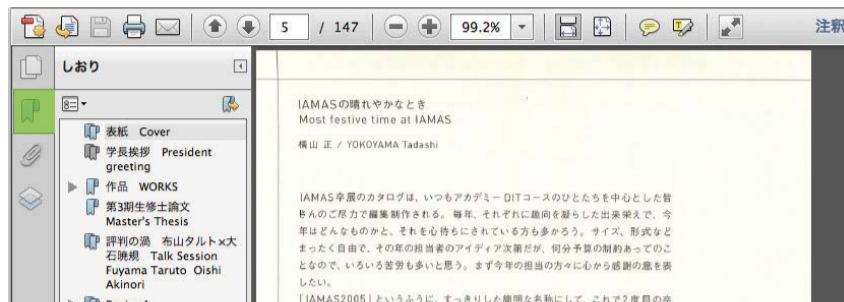
How to use table of contents

- For Adobe Reader

Access as table of contents using the“guidebook”function.

- For Apple Preview

Access the“sidebar”as the table of contents.



②検索機能で該当するキーワードや名前などを見つけることができます。

- ・ Adobe Readerの場合
「編集>簡易検索」もしくはコマンド+F
- ・ Apple プレビューの場合
検索窓に入力してください。

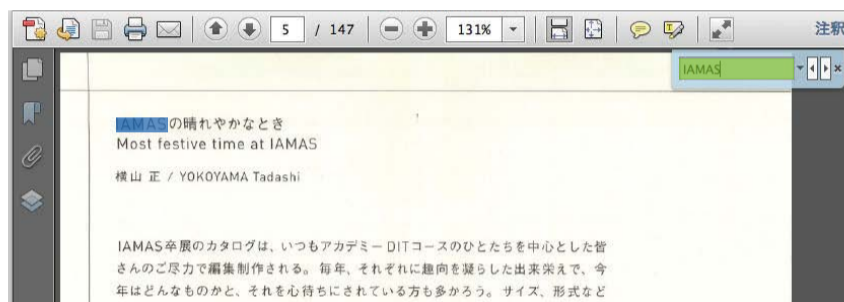
Keywords or names can be found using the search function.

- For Adobe Reader

Edit → Simple Search OR Command + F

- For Apple Preview

Type into the search window.



iPadで閲覧 | Via iPad

※iBooksでのご利用を推奨しています。

※Use via iBooks is recommended.

①目次の使い方

- ・ メニューのリスト表示から目次をご利用いただけます。

How to use table of contents

- Access from the list display in the menu.



②検索機能で該当するキーワードや名前などを見つけることができます。

- ・ メニューの検索アイコンから検索いただけます。

Keywords or names can be found using the search function.

- Search from the search icon in the menu.



Android端末で閲覧 | For Android

※閲覧する端末、アプリケーションによっては目次機能が正しく動作しない場合がありますのでご了承ください。

※Please be aware that depending upon the terminal/application used, there are times when the table of contents function will not work correctly.

IAMAS BOOKS

—産業・地域連携報告書—
IAMAS Annual Report 2015

発行日 Issue	2017年4月再編 April. 2017
編集 Editor	具志堅裕介 GUSHIKEN Yusuke
撮影 Photography	古澤龍 FURUSAWA Ryu
翻訳 Translator	ダニエル・バート DANIEL Burt
監修 Supervisor	前田真二郎 瀬川晃 MAEDA Shinjiro SEGAWA Akira
発行 Publisher	IAMAS 産業文化研究センター [RCIC] IAMAS Research Center For Industrial Culture [RCIC]

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
503-0006
岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7

4-1-7 Kagano, Ogaki-shi
Gifu 503-0006, Japan

www.iamas.ac.jp
Copyright IAMAS